日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

裾野麗峰山の会 (sine１９９４)

第２５期・13巻　　２０２０年　３月号　　ＮＯ．223

仲間と仲間を結ぶ機関誌

すーほう

Susono Reihou Alpine Club

雪山の記憶

山行ＮＯ．１８５４
２０２０．０２．０８
横岳・杣添尾根

焼岳　黒谷で雪崩に巻き込まれる

石川県勤労者山岳会　　白山フウロ山岳会　　文・形屋利幸（大魔人）
メンバー＝大魔人、YSHR さん、あんちゃん、コーエー

２０２０年２月１２日
林道除雪終了点２：４２～巨大堰堤３：１９～尾根末端３：５７～谷横断核心部６：１４～雪崩発生２２６０m 地点６：３９～停止点１８６０m～滑降開始７：０８～巨大堰堤７：３９～帰還７：４９

今日は水曜友の会に参加して焼岳の黒谷に出かけた。スタートからラッセルなので巨大堰堤まで滑ってこれるだろう。僕とコーエーは昨日山に行っていないから元気、率先してラッセルしていった。巨大堰堤を横断して崖地帯から尾根末端に登り上げる、ここはコーエーに先頭を任せて勉強させたが補習がついた。

YSHR さんがルートを作って登り上げたら後はひたすら尾根を登るだけだ。ブーツラッセルなのでスピードが速い、月明りの中ドンドンと高度が上がっていく。対岸の笠ヶ岳と西穂は月に照らされてよく見えていた、西穂に登る登山者のライトも見えていた。こちらのライト４つも見えているだろう。

岩峰手前でクトーを装着して核心部に向かう。薄明るくなるころに核心の谷横断となった、谷はモナカなので滑落の心配はなかった。尾根を挟み２つ目の谷に入るころには明るくなっていた。後は稜線を目指して登り上げるだけ、斜面は相変わらずのモナカで滑落の心配はないだろうが歩きにくい。左の尾根に登り上げて緩斜面から行こうと進んだが雪が深いのであきらめてターンをした瞬間叫び声が聞こえた。

マジですか、斜面が動いている、雪崩が発生した。とっさにウィペットを滑り面に刺そうとするが全く届かない。雪の塊は加速していく、うつ伏せの状態で必死にもがいた。雪はドンドンと覆いかぶさり直ぐに視界は無くなった。谷は狭く急峻なので更に加速し恐怖を覚えた。ひたすらもがくしかないが徐々に体が横になる、スキーが邪魔して足が全く動かない。そして最悪の逆さまになってしまった。

岩にぶつかれば即死だろうか、雪が覆いかぶさり視界が暗くなっていく、ヤバいと思いとっさにエアポケットを作ろうとした。必ず助けに来てくれる。しかし逆効果、もがかないから腕まで雪の圧力がかかってきた。時間にして数秒か、全身の力を込めて再びもがいた。暗闇と雪の圧力から生きて帰りたい。すると圧力が強い為か左のスキーが外れたのが分かった、腕と足をめいいっぱい動かし体を横にすることができた。そして雪崩は停止した。助かった、生きている、雪の中から這い出た、周りを見ると壮絶なデブリであった。死ななくてよかった。みんなは心配しているだろう、とりあえずザックを降ろして暖かいお茶を飲んで気持ちを落ち着かせた。

板とウィペットが１本無い。とりあえずシールを剝がして靴を固定して滑降モードにした。スキーが見つからねば一本足で帰るしかない。ゆっくり滑り２０ｍ程下降した所にポンの先端が見えた。奇跡です、板は縦方向に刺さった状態だった。回収したころ上から YSHR さんの叫び声が聞こえたので僕も大声で応答した。そしてビーコン片手に滑降してきた。

信頼できる仲間と山に行くのが鉄則です。二人で無事を喜んだ。ふと足元を見るとウィペットもあった、もう奇跡としか言いようがない。約１０分後にあんちゃんも滑ってきた、青ざめた顔をしてたのでとても心配してたんだろう、そしてコーエーも合流。彼も雪崩に流されたらしい、モナカ雪も雪崩たのか。GPS で確認すると標高差で４００ｍも流された、二次被害が起こる前に安全地帯に戻ろう、あっという間に滑り降り巨大堰堤も越えて帰還した。

雪崩で生死を分けるのは何だろうか、僕は必死にもがいたので埋もれる事はなかった。しかし雪崩直後から逆さまだと埋もれていたかも。奇跡的にケガも紛失したものもなく生き延びた。山には本当に神様がいるのです、これからも神様を信じて山に行こう。

雪崩現場

雪崩発生点付近。

写真＝３点大魔人ブログから

静岡県連　第 53 期＜第５回県連理事会報告＞

２０２０年１月１９日（日）９時～１６時　長田生涯学習センター

【理事出欠状況】

伊豆ＨＣ　鍋島　要（欠）　　あさぎり山の会：斉藤富夫（〇）福原勝治（〇）

安倍っ子山の会：竹本幸造（〇）三島労山：山口美恵子（〇）　　ＮＭＣ　：森　英代（〇）

麗峰：後藤隆徳（〇）駿東山の会：曽根敏之（〇）　　清水労山：小林幹郎（〇）

山登歩山の会：花澤秀治（〇）　山本貞吉（〇）　　静岡労山：　瀧　茂（〇）

吉田綾子（〇）　沼津労山：植松久美子（〇）　　浜松労山：後藤秀人（欠）

ふじ山楽歩：加藤秀子（〇）　焼津山の会：古本雪子（〇）フレンズ：鈴木哲治（〇）

１　会長あいさつ

２　各ブロックより

東部ブロック　資料訂正　鍋島Ｂ長⇒曽根Ｂ長　　12 月１６日ブロック会議

　　ブロック交流ハイク　報告　　県連交流ハイク　　打ち合わせ　　来期役割等確認

中部ブロック　１月１９日　ブロック会議

　自然保護デー取り組み　大浜海岸の清掃ボランティア　２月スノーシューハイク来期役員人事

西部ブロック（欠席：報告なし）

３　各専門部より

＜組織部＞

１１月末組織数確認　　理事会資料には駿東山の会を入れてある。

＜教育遭対部＞

年末年始山行取りまとめ

後藤：単独山行が何件かあるがいかがなものか

瀧　：下山報告、変更報告は各会どのようにしているか静岡は留守本部、山行管理部両方に

後藤：計画書にサブコース（雨の日の代替案など）を入れるようにしている。

　竹本：日帰りも入れてはどうか

　瀧　：労山でなくても事故があると警察や報道から問い合わせがあるのでまとめて置くことは必要

＜自然保護＞

前理事会以降特に取組等ない

４　この間の県連・全国連盟行事、他

①　国女性交流集会　　参加：山口（三島）

山口：詳細は報告集（植松が持っている）を見てほしい。若い参加者もあり、集会で知り合って山行するなどの例も見られた。しかし、静岡県連に女性委員会がないのに県連代表として交通費等の助成を受けて集会に参加するのはどうだろうか。

静岡県連の経緯　２５年ほど前まで静岡県にも女性委員会があり、会の壁を越えて女性だけの山行や技術アップの学習会・交流会など行っていた。

竹本：委員会がないから、交流集会に参加しないというのはおかしい。山へ行くための女性特有のなやみなどあるのではないか？

福原：ジェンダーフリーの時代に「女性委員会」というものが必要なのか？

① 岡で再度女性委員会を作るのか

② 国委員会にどうかかわっていくのか

③ に行けない女性の状況を運動化する役目はなにか

植松：ハイキング集会などと同様に、県連として行事の案内はしても財政的なこともあり参加は個人資格で良い。

望月：古本：女性の行きづらさはあるが、家庭の問題。女性委員会を立ち上げていくまでの必要ない。

後藤：会を越えた女性の集まりがあってもよい。

理事長：財政の厳しさもあるので、県連として参加要請はしない。個人としての参加を促していく。

②全国登山学校担当者交流集会　参加　吉川さん（駿東山の会）

感想：装備について聞けた。山の好きな人たちと交流をもち楽しかった。

スマホの活用については参加者にスマホ初心者が多くなかなか先へ進めなかった。

③　山の日記念　南アルプス写真展　別冊資料あり

竹本：目的は、南アルプスの良さを知ってもらい、自然保護の意識を持ってもらうのが目的。写真の出展が少なく、要請してデータで提出してもらったものについて、江藤さん（静岡）が自己負担している状況である。予算の１万円は会場費で使用した。

福原：きちんと１枚いくらかかったと計算して清算すべき。

瀧　：本人は３万位と言っているがそれ以上かかっているはず。

理事長：今年度については３万円を江藤さんに補てんする。

④　全国自然保護担当者会議　　訂正　徳島県⇒全国連盟事務所　　別冊資料あり

４　県連交流ハイク

日程　曽根ブロック長から資料配信あり

12 時徳倉山頂上で交流会　それまでに昼食・甘酒を済ませておく

トイレブースがあるので各自携帯トイレ持参。販売もする

５　駿東山の会脱退について

曽根：理事のなり手がなく将来的にも今のところいない

労山に入っている意義、駿東は里山ハイク程度で登山技術の向上などあまり必要ない

労山を抜けても今の会の状態で運営していくことができる

運営委員会で脱退を決め、定例会、会報で会員に伝えた

労山に残りたいという声もあったが会として分裂することは望んでいない。

斉藤：駿東の役員と話し合いの機会を持った。理事がいなくても労山の会として続けられる等話し合ったが、残ることは難しいという結論だった。

第５３回県連総会

竹本：駿東の総会に諮って決定すべきではないか。

福原：本来、会の総会で決定すべきだが、駿東は運営員会の決定・会員への周知という形で良いのか

曽根：その手順で脱退を決めた。

後藤：このような状況を早めにキャッチし、フォローしていくことが大事。理事が出せない、会議などで休みがつぶれるという現状をこのままにするのではなく、改善策をとることが必要。

斎藤：駿東の脱退を認める。理事の選出、休日の会議の問題について今後考えていく。ネットの活用を図る。趣意書の周知を図る。

６　リニア新幹線問題について

反対署名　10 月以降　裾野２０筆、焼津７０筆、竹本２００筆　など３３０筆位

県連総数　約３０３０筆　　全国で約１４７００筆

山が壊れることで生活が壊れていくという訴え　2 万筆を目指す。

７　その他

①栄誉功労賞・永年功労宗　　訂正　ふじ山落歩　⇒　山楽歩

瀧さん（静岡）推薦したが固辞された

②山筋ゴーゴー体操　２月１日（土）～2 日（日）

参加予定　あさぎり 4 名　山楽歩 1 名　焼津 1 名　静岡 1 名

③全国連盟総会

代議員：斎藤理事長、次期理事長候補者

④積立金の利用　約 120 万円　　これまで、ベルクの装備費、隊員の保険で使用

安全登山に関わることに、使途は理事会に一任するとして総会に提案する

⑤ベルク装備品処理　カラビナ、ロープなど総会で販売する。

装備品リストをメールで配信する

ベルク装備がなくなるので、県連事務所を廃止する

８　５４期総会　３月１日（日）　長田生涯学習センター予定

（１）総会資料検討　　後述

（２）総会役割

司　　会　　植松
議　　長　　東部（伊豆HC)、中部（　　）
資格審査　　西部（　　）
書　　記　　中部（　　）
選挙管理委員　　東部（あさぎり　　三島）

（３）５４期体制
理事長　中部（　　）
副理事長　　東部（あさぎり　福原）　　中部（　　）　　西部（　　）
事務局　中部（　　）
専門部長　　組織部　東部（　　）　教育遭対部　中部（　　）　自然保護　西部（　　）
財　　政　　東部　　会計監査　東部２名
（４）代議員　　別紙　訂正　　駿東０として修正版添付
＜議案書検討＞

◎５３期全体総括　　６行目　地球温暖化という言葉を加え
１８行目　労山理念の理解を進められなかった。
最後　来場者６３２人
メリットについての回答　　連盟費を払いその代償を得るものではない。
目に見えるものとしては安全登山講習会など
入会動機にある「山の技術を学ぶ」「一緒に登る仲間」
労山に入っているのはギブ＆テイクという関係ではなく、安全登山を目指す、自然を守るなどといった趣旨を共有し行動していくこと。

◎組織部　自家用車資料　必要なし
集計表関係　駿東は「０」とする　推移表の年・月を　年度に変更
バスハイク　２団体、登山教室　３団体
◎自然保護　方針　　プラごみについて加える
◎財政　　予算　　ブロック活動費　東部４万、中部３万、西部１万
事務所費０円　　訓練学習会３万　　４団体写真展３万計上

◎　その他　誤字脱字、数字の確定など
◎　理事推薦状　提出期限　　２月２０日　植松まで

１．レイホー当面の予定
２月　２月は１日が第一土曜日で変則的
第一　０１日（土）～０２日（日）・・・・・八ッ・杣添尾根
第二　０８日（土）・・・・・・・・・・ハイキング

第三　１５日（土）
　　１６日（日）～１７日（月）・・・上高地
第四　２２日（土）・・・・・・・・・・・ハイキング
第五　２８日（土）・・・・・・・・・・・アルパイン

３月　　０１日（日）・・・・・・・・・・・静岡県連総会＝代議員・井上
第一　０７日（土）・・・・・・・・・・・アルパイン
第二　１４日（土）・・・・・・・・・・・ハイキング
第三　２１日（土）・・・・・・・・・・・アルパイン
第四　２８日（土）・・・・・・・・・・・ハイキン

２．寄贈会報とピックアップ

「あさぎり」あさぎり山の会　　２月号　A4　23P　　紙製本
「ハイキングだより」新潟・みちぐさハイキングクラブ　２月号　NO.313　P13　　電子版
・・・大力山初登山。雪は異常に少ない。下山して HC 部長宅で新年のの集い。
「あしたか」沼津勤労者山岳会　　２月号　　A４　６P　　紙製本
「くろゆり」三島勤労者山岳会　　２月１日　NO.４８１　　電子版・・・会財政は銀行並み？？！！
「山梨山の会」やまなし山の会　　２月号　　電子版

2/4

尾瀬の木道をスマホで散策

ストリートビュー公開

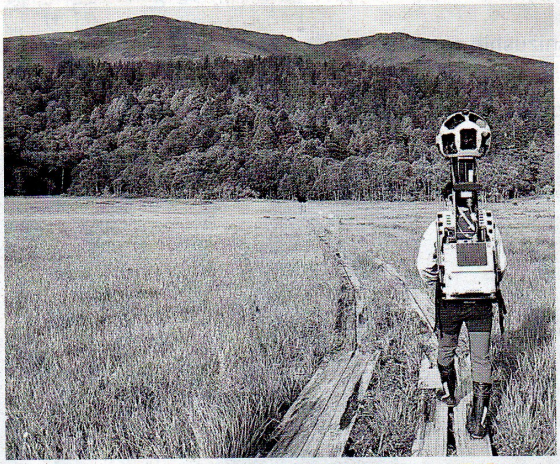
群馬、福島、栃木、新潟の4県にまたがる尾瀬国立公園の人気観光エリア「尾瀬沼」と「尾瀬ケ原」周辺の写真を、尾瀬保護財団（前橋市）が撮影し、検索大手グーグルのサービス「ストリートビュー」で公開している。尾瀬は近年入山者が低迷していて、財団職員の宇野翔太郎さん(28)は「スマートフォンで美しい風景を味わい、実際に足を運ぶきっかけになってほしい」と語る。

ストリートビューは「グーグルマップ」の機能の一つで、観光地や街中など周囲の風景の写真を、その場にいるかのようにパソコンやスマホで閲覧できる。財団職員が昨年8月末から約2週間かけて、周囲を360度撮影できる特殊な機材を背負い、木道約20キロを歩いて撮影し、ストリートビューに投稿した。

尾瀬沼では、オオシラビソの森が広がる北岸や、ニッコウキスゲなどの高山植物が生い茂る「大江湿原」を公開。尾瀬ケ原では、ミズバショウの原生地の「下ノ大堀川」や「山ノ鼻植物研究見本園」、珍しい水の流れが特徴の「竜宮」から「ヨッピつり橋」の区間が閲覧できる。

登山客が木道を写真で下見し、装備の準備に役立たせることで転倒などによるけがを減らそうと、財団が2018年12月に撮影を企画。登山客に安心して尾瀬に来てもらったり、広大な湿原や美しい水面の魅力を遠方の人に伝えたりできるという。

宇野さんは「本州最大の湿原の散策を疑似体験し、集客につながってくれたら」と話す。



ストリートビュー撮影用の機材を背負い、尾瀬の木道を歩く尾瀬保護財団の職員
＝2019年９月、群馬県片品村

この人

全国優良警察職員表彰を受けた

佐野(さの) 勝己(かつみ)さん (富士宮市)

1988年4月に警察官となり、主に地域畑を歩んできた。90年9月から県警山岳遭難救助隊員として、約30年にわたり、多くの人命を救ってきた。富士宮署の山岳遭難救助隊長を務め、日頃は芝川交番に勤務する。富士市出身。55歳。

―表彰の喜びを。

「警察官としては特殊な経歴を評価してもらい、とてもうれしい。通常の事件事故と違い、隊員以外は現場を見に行けない。上役が山岳救助の活動を理解し、信頼してくれているからこそ受けられた」

―山との関わりは。

「大学時代に本格的に山登りを始めた。北アルプスの山小屋でアルバイトをしていた際、富山県警の山岳警備隊の人と出会って救助隊の仕事を知り、そこからのあこがれで就いた」

―やりがいは。

「普段、警察官は直接感謝されることはあまりないが、救助隊員は救助した本人や家族に喜ばれる。救助に行けるのは自分たちしかいないという自負は隊員の皆にあるはず。一方で要救助者を発見できなかった事案が多数あるのが心残りで、悔しい思いも多くある」

―若手に求めることは。

「山の世界は自然が相手。今はスマートフォンで情報を仕入れることができるが、そこには感覚がない。さまざまな条件下で経験を積んでほしい」

◇

登山者に対し、登山前の入念な下調べを促す。

(富士宮支局・白柳一樹)

2/7

富士山 つなぐ世界遺産

入山料を全員負担に

富士山学術委 徴収方法を検討

有識者でつくる富士山世界文化遺産学術委員会(委員長・遠山敦子元文部科学相)は6日、都内で会合を開き、現在は来訪者に任意で支払いを求めている入山料(保全協力金)について、今後は受益者負担の観点から来訪者全員の負担にする方針を承認した。利用者負担専門委員会が引き続き、具体的な徴収方法などを検討する。

=関連記事26面へ

入山料は現在、5合目から先に立ち入る来訪者を対象に徴収しているが、協力率は6割程度にとどまっている。委員からは「受益者負担の考えは理解できる」として、全員から徴収する方針で検討を進めるよう求める意見が出た。

別の委員から「徴収方法を料金にするか、税金にするかはしっかり検討しなければならない」「(入山者に)負担を求める理由と使い道を明確に示さなければならない」などの指摘もあった。専門委の検討を経て、静岡、山梨両県などでつくる富士山世界文化遺産協議会で方針を最終決定する。

学術委員会では、山梨側の5合目に至る交通システムを検討している富士山登山鉄道構想の中間報告の骨子も報告された。委員は5合目の混雑解消や冬季の保全管理の在り方など根本的な問題が多く残っているとして、慎重に検討するよう山梨県に求めた。

(東京支社・内田圭美)

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真　　ＧＴ
山行番	ＮＯ．１８５１
日　時	２０２０/０１/１６（木）快晴・風弱
山　域	八ッ＝権現岳・三ッ頭（２５８０ｍ）
コース	八ヶ岳横断道発７：３３ー天女山ー天の河原８：２５ー笛吹市のオジサンに会う １１：０２ー前三ッ頭１２：００ー三ッ頭１２：４９ー昼食１３：１１ー前三ッ頭 １３：４０ー横断道路１６：０５
標高差	上り　横断道約１３７０ｍ～三ッ頭２５８０ｍ＝約１２１０ｍ 下り　　〃
参加者	ＧＴ、ＫＨ＝２名

冬の権現岳は、１９８６年２月２２～２３日（２２日は、３９歳誕生日だった）
http://susono-reihou.babyblue.jp/01-30.pdf
http://susono-reihou.babyblue.jp/1-7.pdf
２０１４年３月９日
http://susono-reihou.babyblue.jp/412.pdf　に上った。

前者は、日帰りでなく山中一泊。男子（三島Ｋと）２名。厳冬期でラッセルは皆無で厳しい山だった。後者は、３月の日曜日で登山者が多くラッセルは楽だった。ただ、前夜宿泊りで、朝食が遅く、時間の制約があった。
日帰りの場合、三ッ頭着時間がポイント。１２時前なら、往復２時間かかる権現岳は上れる。１２時を過ぎると、下山時間を考えると止めたほうがよい。
また、以前も書いたが、同じ日帰りでも、長泉発と現地発では、体力に大きな違いが出てくる。今回は長泉発５：００で睡眠不足でキツイ山だった。

八ヶ岳横断道ゲート

天の河原

八ヶ岳横断道路の天女山ゲート着７：３０。しかし、今年は、やっぱり雪が少なかった。雪山でアイゼン歩行の場合、雪が少ないと歩き難いものである。
そして、長泉発５：００は、決定的に睡眠不足だった。パワーが出ない。意欲が湧かなかった。前

回は前三ッ頭着が１０：４２。今回は、遥か下で１１：０２だった。前回、三ッ頭着は、１１：４０の正午前だった。今回は、１２：４９で１時間遅れ。体は、バテバテ・ヘロヘロ・グチャグチャだった。
ただ、不思議なことに年末山行で途中棄権だった相方は、今回絶好調。理由はあった。年末山行後、朝食改善をうながした。結果、早朝山行でもパワーが発揮されるようになった。元々、力があるから、更に問題を改善すればルンルンだろう。

三ッ頭下で下ってきたオジサンに会った。早い下山だ。我々より２時間早い５時半に出たという。一人で三ッ頭までラッセルをしたという。手製の長いストックを持っていた。長すぎて使い難いような感じもしたが、意外と便利のようだ。

明るい尾根

笛吹市のオジサン

オジサンと情報交換。年齢は私より少し若かった。若い衆が二名、権現に向かったという。地元といったので、何処か聞いたら、「笛吹（市）」と答えた。天気が良いと、「一人でブラブラ上る」ようだ。ま、それもいいじゃないか。
オジサンと分かれて上るが、相変わらずピッチはもどかしい。急坂をこなして、やっと前三ッ頭着。ここから更に三ッ頭まで約１時間半は長かった。深い吹き溜まりを越えると三ッ頭だった。

三っ頭（２５８０ｍ）大展望

時間は大幅に遅かった。１３時近いので、権現は無理だった。雄大な景色が広がっていた。前回は、もっと雪が多かった。ここまで上った甲斐はあった。目を凝らしたが、若者二人は分からなかった。しかし、それでも標高差約１２１０ｍを上ってきた。ま、いいじゃないか。いいとしよう。今回も目標の頂は落とせなかった。
下山は楽だった。特に急な山ほど下りは楽だ。また、下りは上りの印象とずいぶん違う。前三ッ頭は綺麗な尾根が続いていた。正面に常に富士山が見えていた。風がないところで昼食。体が限界でたべものを吐きそうになってしまった。完全に体は「いかまって」いた。

今回の不調の原因は、別にもあった。１月４日、高松山ハイキング時、朝、林道を上っていたら左足裏に痛みが走った。捻挫とかではない。下山時も痛かった。その後、富士山ハイキングが続き、今回の登山。上りでずっと痛く、力が入らなかった。しかし、途中敗退は「クセ」になるから、兎に角、三ッ頭まで頑張った。
帰着後、ネットを見たら足裏には筋があり、「過労・加齢」等で炎症を起こす「足底けん膜炎（足底筋膜炎）」であるとあった。実は以前もなったことがある。４４年前、北海道を２週間歩いた最終日、石狩岳の帰路、長い林道を歩いたら、同じような症状になった。しばらく、不自由な思いをした記憶がある。

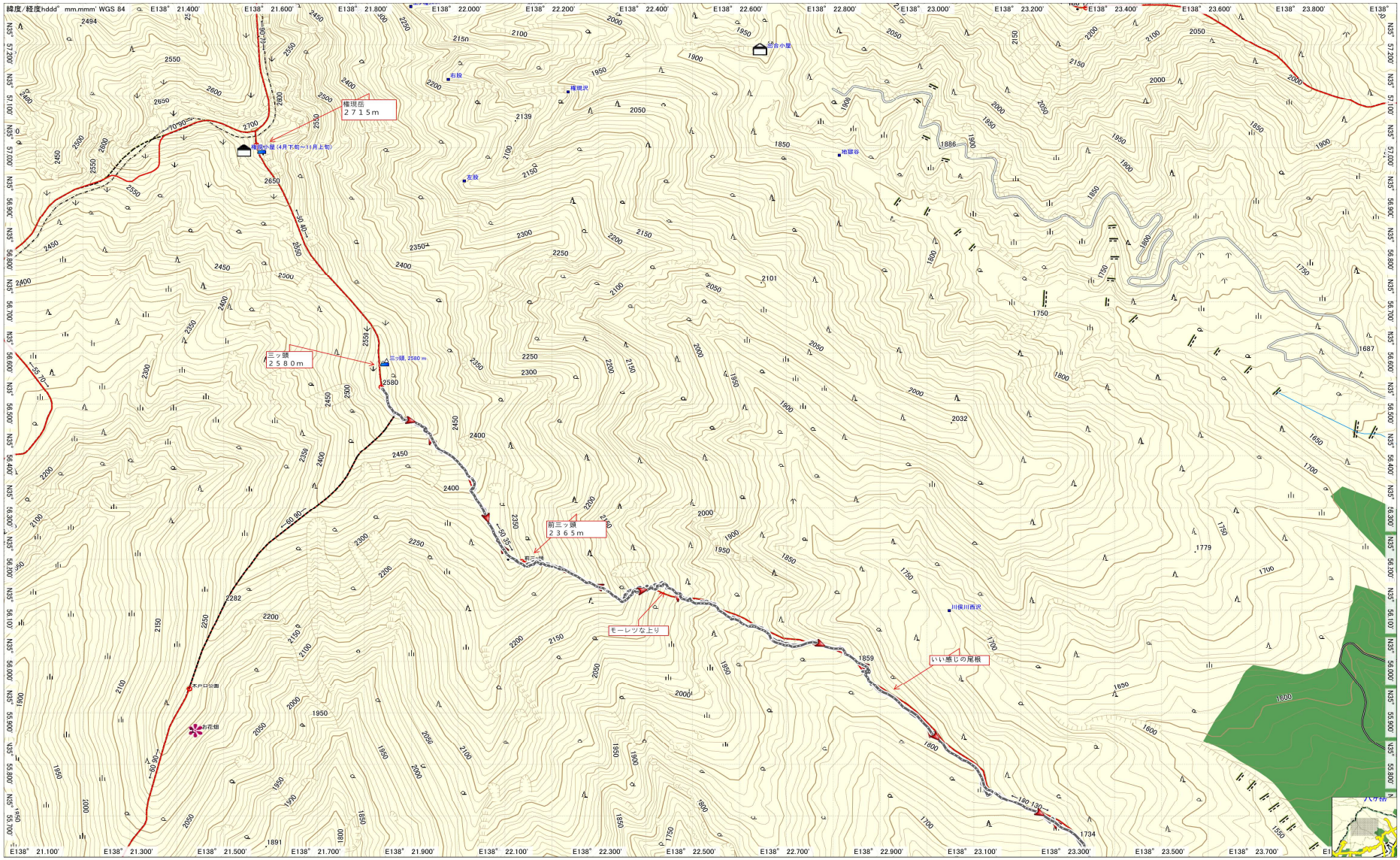
気になるので一応、病院にいった。レントゲンは問題なかった。医師曰く、やはり「過労・加齢」だった。湿布を続けたら、約一か月後、痛みは引いた。良かった。

富士山が小さい

高いところが三ッ頭

下山は、案外長い。前回も途中の平坦部が長かった。左手のスキー場？に人が全く見えない。雪不足で閉鎖だろうか？ようやく車着。今回も往復９時間弱。なかなか、厳しい山だった。次回、訪れる機会があったら、是非、権現を落としたい。

（了）


緯度/経度hddd° mm.mmm' WGS 84
権現岳
２７１５ｍ
権現小屋（4月下旬～11月上旬）
三ッ頭
２５８０ｍ
三ッ頭 2580 m
前三ッ頭
２３６５ｍ
モーレツな上り
いい感じの尾根
木戸口分岐
お花畑
右股
左股
権現沢
地獄谷
川俣川西沢
鳳凰小屋
Japan Topo 10M Plus V3
2020/01/18 9:26:39
GARMIN

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・ＩＫ　　写真・ＧＴ
山行番	NO.１８５３
山　域	富士山・御殿場口（山岳スキー）
コース	竹沢種苗店 5:05－洞門駐車場発 6:09－2000m－上塚上コル－幕岩沢（仮称）上－上塚上コル－上塚南面－洞門駐車場着 12:10—長泉
累計標高差	上り　御殿場口太郎坊洞門約１２８５ｍ－標高約２０００ｍ＝約７１５ｍ 幕岩上約１７５０ｍ～上塚コル約１８８５ｍ＝約１３５ｍ 下り　同上
快適度	（５段階評価）５＝藪ない
参加者	後藤（72 歳 11 か月）、山本（52 歳、元会員）、井上（50 歳 0 ヶ月）＝３名

２０１９年４月から山に復帰し、とうとうこの日がやってきた。すべてはこの日を想定した準備だった。テン泊の縦走、冬山アルパインそして山スキーが、最も体力を必要とする。

この日のために重い荷物を持てるようにし、息が切れないようにし、長時間歩けるようにと考えてきた。最後の山スキーは２０１５年３月の白馬八方唐松岳で、この時は強烈な雨溝でスキーが全くできず、体力は完全に切れ、スキーゲレンデのリフトに乗って下山した。その悔しい思いのまま、約５年がたっていた。

モルゲンロート

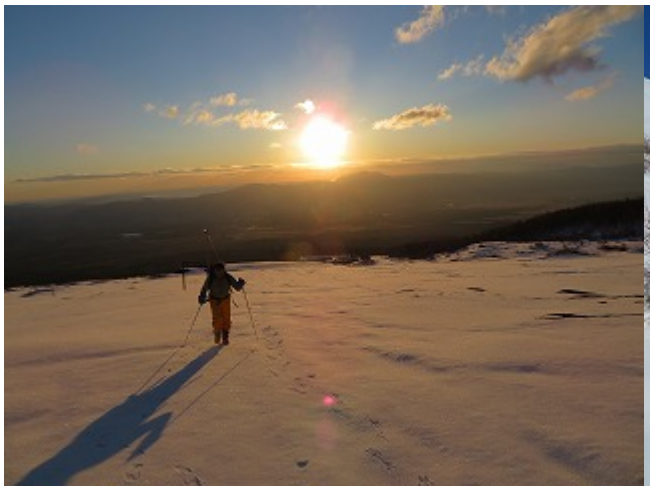
今回は、元会員の山本さんが参加。山本さんとは２００９年４月に富士吉田口で吉田大沢の山スキーをいっしょにやって以来で、これまた１１年ぶりの再会だった。すっきり痩せて、パワフルさを感じた。５時に竹沢種苗店でピックアップしてもらい御殿場口太郎坊洞門へ。洞門に近づくにつれ道際の雪が少しずつ増えてくる。気温はマイナス２度の表示だった。

駐車場には、４～５台とまっており、その中に山本さんの富士山ナンバーの黒のベルファイヤがあった。山本さんは現在お住いの藤沢からの参戦で、奥さん同行。奥さんは山本さんを富士山において御殿場の友人に会いに行くのだそう。

まだ真っ暗なので、あわててヘッドランプをだして準備開始。雪は駐車場まであるが、とりあえずス

キーを担いで歩いていく。久しぶりのスキー靴での歩きは慣れない。出した足が雪で滑って戻ってくる。背負ったスキー板が、道の上の木の枝に引っ掛かり何度も立ち止まる。林を抜けるころ、空は次第に明るくなりヘッドランプを消す。

富士山の頂上がお目見えだ。やがて、富士山のショーが始まった。背後の箱根の山頂から太陽がのぞきはじめ、富士山の色が変わり始めた。頂上から下に向かって赤く光り、そして全体が赤くなって、終了。あっという間に色のショーは終わるが、この壮大なショーが見られるのは、このタイミングにここにいるからだ。太陽が出ると、雪面はきらきらと光り始める。見回すと全ての雪が光っている。まぶしいのではなく、雪の表面に氷の粒が太陽の光を反射している。小学生のころ好きだったアイスクリームの「宝石箱」を思い出す。空の青さに驚く。見る方向によって青の色が違う。



今回一番好きだったのは、南の空の二ツ塚の向こう側の何とも言えない青だった。地上ではお目にかからない色で、軽薄な水色ではなく、深すぎる思い紺色とも違うなんともちょうど自分が好きだと思える青だったので、ずっと見ていられた。御殿場口の富士山の登りは単調なので、こんな景色を歩きながらじっくりと眺められる。

山本さんはやはり強く、どんどん先を行き、後藤さんと私はどんどん離されていく。あるところで、後藤さんが右にでて杭が並ぶコースに移動した。３番手の私は、遅れないようについていく。

アイゼンが必要になって取り付ける。アイゼンの爪が凍った雪面に刺さり、歩きやすい。しかも安心。アイゼンをつけるのも久しぶりなので慎重に歩いた。以前ひっかけて腿をけがしたことがある。
標高２０００ｍくらいまで登ったが、これより上は雪はさらにガリガリになりスキーは無理だろうということで登りはここまでとした。山本さんは、すでに相当登ってしまっている。

後藤さんと私は、ここからスキーを履いて二ツ塚上塚の上のコルへトラバースし、南側の雪の状態を見ることにした。かなり苦労してスキーを付けた。なかなかはまらない。かちかちの斜面では、スキー板がなかなか水平にならず靴がビンディングに平行になりにくい。スキーを履くのに息が切れ、何度も休憩した。やっとのことでスキー装着。

ここからのトラバースがきつかった。雪面は雨溝の畝になっていて、トラバースも進まない。２～３ｍ進んでは止まる連続で、太ももが痛くなる。横滑りだけで息が上がる。どんどん後藤さんに離される。エッジが立たず、足に力を入れてエッジを立てないとずるずると滑り落ちてしまう。

数年ぶりのスキーはこんな感じで始まった。もしかしたら今日は気持ちよいスキーは無理かも。上塚

↑　凍雲を背に上る（バックは愛鷹連峰）　　↓　富士山は素晴らしい

上のコルで一休み。山本さんに電話連絡し、登りをやめて横移動したことを伝えた。しかし、山本さんの姿は点ほどにも見えない。あの点がそうだとか、あの影が動いて見えるとか二人で眺めていたが、どうも下ってくる気配がない。点が動いて見えるのは飛蚊症か。

結局、山本さんだと思っていたのはゴミが上下しているのがそう見えただけだという結論になり、移動を再開した。上塚の南側にまわり、御殿庭方面へトラバースする。ここでもおいてかれる。

樹林帯入口の幕岩の上の沢まできたが、どうもスキーができる感じではない。スキーを外し、しょってまた戻ることになった。ここで、後藤さんのスキー板の片方が、下に向かって走り出した。

どんどん加速し、幕岩上の沢を生き物が駆け降りていくように滑り落ちていった。スキーのストッパが機能せず下がらなかったようだ。滑り落ちていくのを眺めるしかなく、何百メートルも沢の中をノンストップで滑っていってしまった。後藤さんは探索に出かけた。私は、ひとりランチタイムとなった。やがて後藤さんがスキーをかついで戻ってきた。今日は飲むかどうかわからなかったが持ってきたビールを開け、後藤さんにおすそわけ。持ってきて正解だった。

やっぱり滑りは楽しい

スキー板をザックに取り付け歩きだす。これまた重い。上塚上コルに戻り、やっとスキー再開。ここで山本さんから電話連絡があり、下塚の下まで来ているとのこと。足にまめができたらしい。

ここからの雪は割合滑ることができた。雨溝の畝はあるが、ターンができる。気持ちいい。スキーの滑り方は体が覚えていた。上塚を西から北に回り、上塚の東から南面にまわることにした。また、横滑りのトラバースだ。もうこりごり。南面まできてそこから、上塚と下塚のコルを通過し下塚北側に滑り降りる。ここでは、富士山は単独峰ではないと感じた。下塚、上塚、宝永山、富士山頂上と、４つの同じ大きさに見えるピークが並んでいる。ここに立った人しかみられない光景だ。雲がいい。凍雲というらしい。（とううん：今にも雪が降り出しそうな雲。 寒々とした冬の曇天・俳句の季語）

よい雪を求めてあちこち滑ってみる。雲が出てきた。後藤さんは、暗くなると雪面の状態がよくわからないので、板を外して歩いて下ることにした。私はひとりスキーで下る。

ここから、四つのピークが見える

　誰かのトレースをみてこっちだろうとあたりをつける。スピードをかなり殺してすべるとバランスが悪くなり転びやすくなる。すいすい滑っているときは一回もこけなかったのに、斜度が緩くなってから３回も立ちごけをした。

　疲れているせいか、起き上がるのが大変。林の入口で、スキーを外す。私の板は古いもので長く、林の中ではスキーの取り回しができなくなる（私の技術では）。ここで 12:00 だった。林の中を歩き、12:10 に駐車場にでた。

　山本さんが片づけをしているところだった。山本さんも少し前についたとのこと。続いて後藤さん到着。6 時間履いたスキー靴を外し、足が解放された。いつものようにかかとの内側は直径 3 センチくらい皮がむけている。いつものことで驚かない。しばらく痛いだろう。風呂にもつけられない。それでもスキーは快感である。

その他の記述（ごとう）

１．昨年の富士山・初スキーは、３月１７日、一昨年は、２月３日、９日。今年は、２月１日だから、今年が特に遅いわけでもなかった。やっぱり、富士山は、こんなものだろう。

２．スキーを流したのは初めて。流れ止めは邪魔でしなかった。ただ、ストパーが下がらなかったのは問題。遭難の可能性もある。ゲレンデでも時々あるが、非常に危険である。

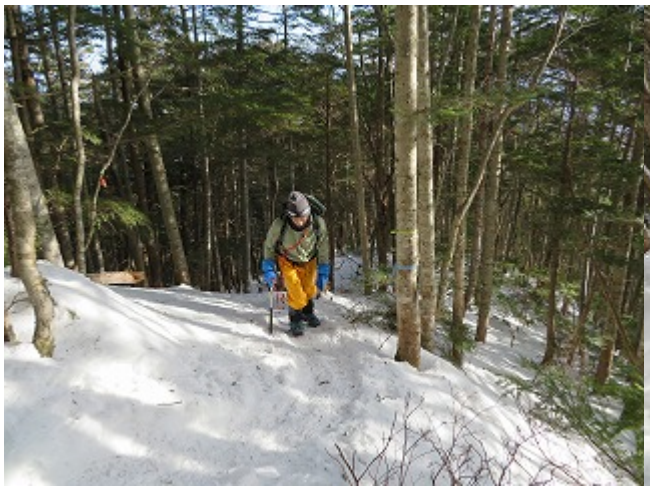
３．途中はマアマアだったが、下部は最悪。捲土重来。

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・ＩＫ　　写真・ＧＴ
山行番	NO.１８５４
山　域	八ヶ岳・横岳（２８３５ｍ）杣添尾根
コース	海ノ口駐車場発７：４５ー森林限界１０：１７ー三叉峰（さんじゃほう）１１：４０ー横岳１２：００ー三叉峰ー展望台（昼食）１３：１２～４０ー駐車場１５：２８
標高差	上り　駐車場約１７５０ｍー標高約２８３５ｍ＝約１０８５ｍ 下り　〃
快適度	（５段階評価）５＝藪ない
参加者	後藤、加藤、勝又、井上＝４名

久しぶりの冬山登山。八ヶ岳の横岳は初めてだった。
後藤さんと加藤さんは前泊。当日朝、勝又さんに竹沢種苗店で 4：40 に迎えに来てもらった。約 3 時間の運転中、助手席で眠ってしまいました、すいません。
須玉 IC を下り、清里に入り、7:10 ごろ海ノ口別荘地着。別荘地内の道路は氷に覆われていた。すでに後藤さんと加藤さんは到着しており準備にかかっていた。冬用の靴、カッパズボン、スパッツを履き、ワンタッチ用でない革靴の私は一本縛りのアイゼンを取り付ける。これで片方 1.9kg と重い。

海ノ口駐車場

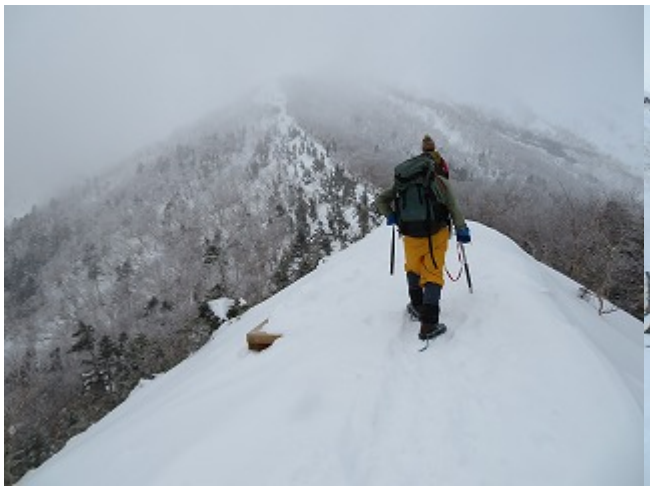
7:45 駐車場スタート。雪がしっかりついた林の中の遊歩道を進む。
林道を横切り、表面が凍っている貯水池を通過する。北沢を渡り、樹林帯に入る。傾斜は地図の等高線ではそれほどでもないのだが、アイゼンをつけているからか、予想以上にきつい。
勝又さんは写真を撮るからと言って最後尾を歩くが、徐々に離れていった。後藤さんは、今日はベストコンディションで最高に歩きやすいと言う。この冬に何度も雪山を歩いている後藤さんはそう感じるが、久しぶりの本格雪山である私には、歩きにくい。
最初から息は荒く、足は重い。4 時間も持つのだろうか。余談だが、この 1 週間、先週の富士山スキーでできた靴ずれのためにずっとサンダルで過ごし、一日 1 万歩以上を歩くようにしていたのが出来なかった。そのためか、歩きに元気がなく、息も荒くなっていたように思う。
後藤さんの後ろにぴったりとついている加藤さんは、後藤さんの歩幅が広いのでついていくのが大変と言っていた。途中、単独の男性とすれ違い、聞くと、樹林帯まで行ったが風が強くて引き返したとのこと。少し不安になった。しばらく行くと、別の単独の男性を追い抜いた。一人でテン泊の予定とのこと。そこそこのお歳かと思ったが、60 歳と聞いて思いのほか若く驚いた。ようやく 2 時間がたち、約半分まで来て休憩した。勝又さんはほどなくして追いつき数分の遅れだった。
徐々に木が少なくなり、粉雪が降り出した。2540m くらいで小ピークに出て細い尾根を歩く。踏み跡以外に足を置くとひざまで雪に沈む。曇りになると後藤さんの目の調子が悪くなり、雪の凹凸が見えにくくなり、速度が落ちた。



新しい看板

単独のオジサン

先頭を加藤さんと交代する。目の前のピーク三叉峰（さんじゃほう）手前の急登から踏み跡は消え、私が先頭になり、ラッセルを開始。思っていたよりしんどい。踏み跡がないと、雪をかき分けた後、置いた足はズルっと下がるので、上がっては下がるの繰り返しとなり、一歩一歩息が上がる。止まって休みたいが、一番若いのにへこたれていてはかっこ悪いので進む。途中、下ってくる４人ほどのパーティとすれ違った。
この時すでにゴーグルがほぼ凍り付いており良く見えないので、ぼやけたような画像をたよりに進んでいた。私は初めて来たというのもあるが、どこがルートかわからないので右往左往する。
私がうまくピッケルとアイゼンが使いこなせていないのを見て、加藤さんがトップになってくれた。
11:40 三叉峰到着（2825m）。



三叉峰

ガスの中で展望なし。加藤さんは遅れている勝又さんをフォローしに下りることにした。後藤さんは、横岳が初めての私を頂上に連れていくことになった。
あいかわらずゴーグルは凍ってほぼ見えない。良く見えないのはすごい不安だ。横岳手前のコルまで 30m ほどおりて、ここで後藤さんは待ち、私一人で横岳まで 30m 登る。短い梯子は 2 か所。岩をまたぐところもあった。こわごわと歩幅を狭くして安全第一を心がけて登る。
頂上には三叉峰あたりで追い抜かれた男女ペアが写真を撮り合っていた。私がひとり上がってきたが、残りの 3 人が続いて登ってくと思って待ってくれていた。登ってくるのが私ひとりだと分かり、一緒の

タイミングで下りることにした。このままゴーグルをしていると危ないので、雪目雪焼けを覚悟して外すことにした。すると実にくっきりと見えて不安が無くなった。しかし今度は、見えたら見えたで、道の左右が切り立っているのも見えてしまいぞっとする。
風に押されてふらついてはいけない。あわてないように集中する。後藤さんの待つコルに戻り、握手。そして三叉峰に上り返した。

横岳冬初登頂後、少し晴れ間

この往復で合計 60m 余計に上ることになる。よって累計標高差＝約 1150m になる。がんばった自分をほめてあげたい。
三叉峰からの下りも、踏み跡は降雪と風で消えており、どこを歩いてよいか分からない。先頭を行くが、またもや右往左往。やがて下のほうに加藤さんと勝又さんの姿が見えた。勝又さんは三叉峰まで行って下りてきたとのこと。加藤さんは 2 回三叉峰に上ったことになる。
樹林帯手前くらいの少し平らなところで昼休憩。これまでガスがかかってよく見えなかった赤岳が顔をだした。日の光を浴びて神々しく輝く。
加藤さんが使い捨てカイロを保温のスープジャーのまわりに貼りつけて、ぜんざいを持ってきてくれた。餅入りでありがたい。ビールは飲むかやめるか、すぐに決まらなかった。
あまりに寒いのと、残りの下りで足がもつれると危ないからだ。しかし、結局一本を後藤さんとわけて飲むことにした。飲んでみれば、最高のため息が出た。

これまでの緊張感と全身の疲れがビールの炭酸とアルコールをこの上ないものに変えてしまう。
勝又さんは梅酒のお湯割り。30 分ほど休憩し下山開始。樹林帯の下りは単調で長く、とにかく耐えるのみ。肩も、おしりも、太ももももひざもあちこちが痛い。
いつまでも同じ下り。15:20 駐車場到着。後藤さんと加藤さんは 5 分後に到着。15:40 片付け終わり一路長泉へ。18:30 伊豆海鮮で反省会。勝又薫さんが合流。4～5 年ぶりの再会。
コロナウイルスが猛威を振るう中、しっかりと内側からアルコール消毒した。20:30 解散。体が痛い。

赤岳バックにイェ～イ

昼食

伸び～る伸び～る温かいお汁粉

パパは、もうじき７３歳

タマゴ入りラーメン

北沢の橋　　帰着

その他の記述（ＧＴ）

１．登山口に脇の別荘の方がいて交流。比較的若い方だったが、ずいぶん立派な別荘だった。来訪時は入口の門柱に表札がわりの大きな横看板を掛けるそうだ。冬はマイナス１５度くらいになるという。来訪時は、あらかじめ管理人に連絡をして暖房を入れてもらう。別荘全体に暖房が届くに２４時間かかるそうだ。管理人は、そのような希望者の鍵を持参しているそうだ。勿論、サービスは有料。防犯・見回り・除雪代等、年間、なにがしかの管理費は掛かる訳。

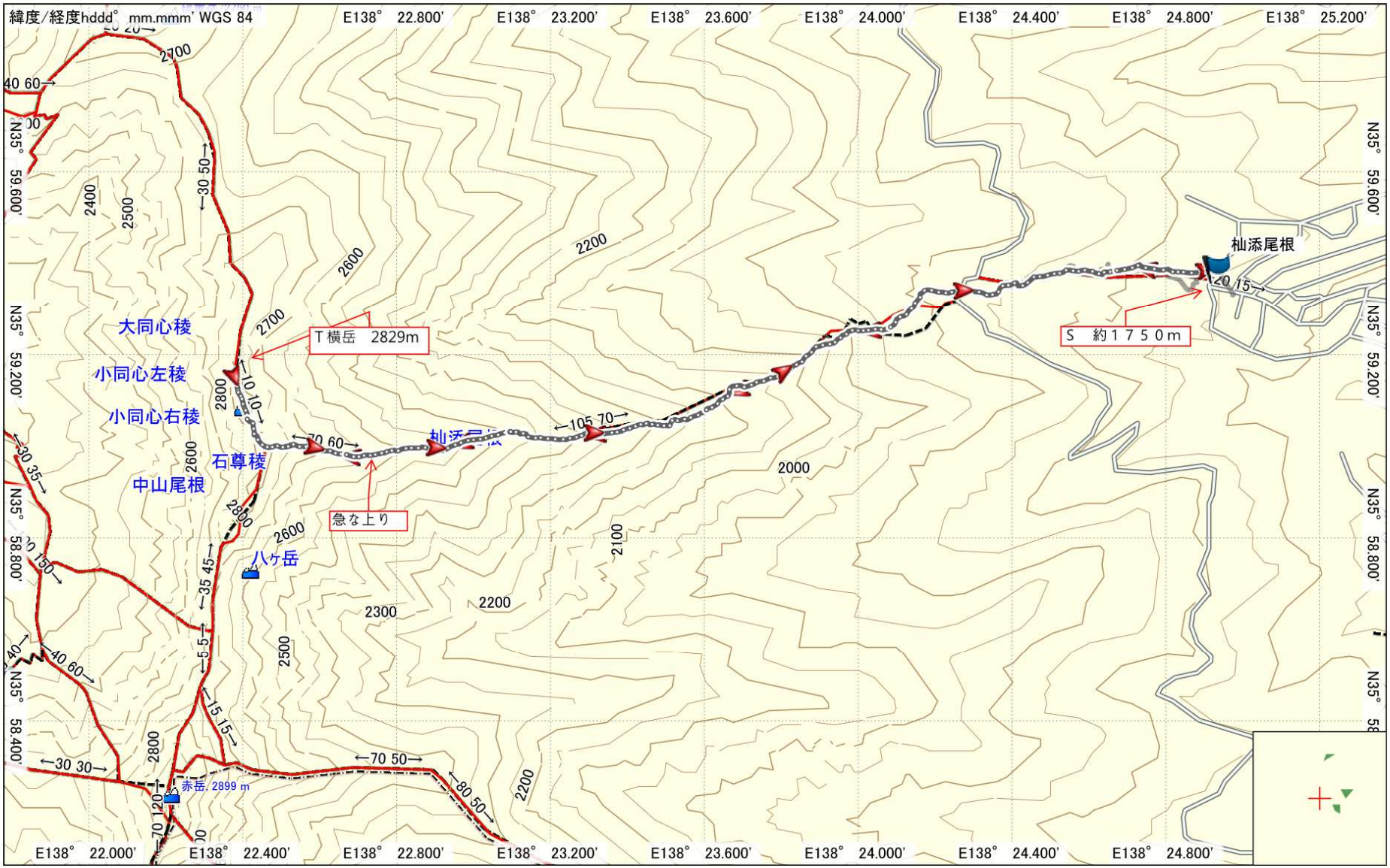
２．前に大きな荷物の方がいた。聞けば、縦走でなく横岳が目的。ただ、日帰りでなく、テン泊希望とのこと。年齢は６０歳。私と干支が同じかと思ったら、一歳下の「ネズミ」といった。この方とは、Ｉが登頂後、最初のハシゴで再びあった。聞けば「今日は横岳で帰ります」だった。

３．三叉峰でＫＹが遅れた。一人はマズいので、既に横岳は何回か上っているＫＨに戻ってサポートして貰った。ご苦労様。お疲れさまでした。

４．三叉峰で前後したアベック。三叉峰の下りで先行していたにも関わらず、後ろに下がって、我々を前に出した。恐らくホワイトアウトでルートがハッキリせず、ルートを作らせたのだろう。余り露骨なのはいただけない。

５．今回は、結構、速いタイムと思ったが、過去の記録を見たら、そうでもなかった。

６．駐車場上の別荘門柱に小鳥が・・・で撮影したが、いつまで経っても動かない。よく見たら、模型だった。ガッカリ。



Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

2018/01/08 6:18:50

0 m 250 m 500 m 750 m 1000 m

GARMIN.

日本勤労者山岳連盟
静岡県勤労者山岳連盟・東部ブロック
裾野麗峰山の会（愛称・れいほう山の会）

会報「れいほう」
第２５期・１３巻　　２０２０・３月号　　NO.２２３

連絡先　静岡県駿東郡長泉町下土狩１５４１－１２　徳山荘
０９０－８９５６～９９９０　　０５５－９８６～６０７５

HP　　http://susono-reihou.babyblue.jp/

mail　　takanori_reihou8888@yahoo.co.jp
　　reihou-0222@outlook.jp